倉賀野城跡（高崎市）

築城年代：鎌倉時代、築城者：倉賀野高俊

縄張図/左手に倉賀野神社、中央下には井戸八幡が記されている

ここは本丸跡で、現在は雁児童公園となっている/説明坂が立っている/北側から南方向に見たところ

倉賀野城址

倉賀野城といっても戦国時代の城だから、高崎城や前橋城のような江戸時代のものとはちがい、規模が大きいものではない。

上州八家の一つ倉賀野三河守は、天文十五年（一五四六）夏、武州川越の夜戦で戦死した。

宮原の庄に金井小源太秀景、須賀佐渡守らが名を連ねる倉賀野党十六騎があり、倉賀野を守っていた。

西上州はそのころ武田、上杉の合戦場だったが永禄二年（一五五九）武田信玄が板鼻に陣取っていたとき、一党の総代として金井小源太が信玄の陣に使し、倉賀野淡路守と改号された。

初めて倉賀野氏を称したのは児玉党の秩父三郎高俊だという。源平の時代のことである。

倉賀野城が天正十八年（一五九〇）に落城するまで四百余年の命運だった。

高崎市

㈳高崎観光協会

倉賀野城跡

鎌倉時代初期、武州児玉党の支流である秩父平四郎行高の子孫、三郎高俊がこの地に館を建立し倉賀野の地名を氏としました。

戦国時代になると、城主の倉賀野三河守行政が関東管領上杉憲政に仕えましたが河越夜戦で戦死、倉賀野尚行が行政の嫡男為広を助け倉賀野十六騎と共に城を守りました。

その後、上杉謙信が上州へ進出すると為広を継いだ尚行は箕輪城主長野氏と上杉方になり、箕輪城の支城の役割を果たしていたため、武田信玄が侵攻してくると内部不和もあり落城し尚行は越後へ逃れました。

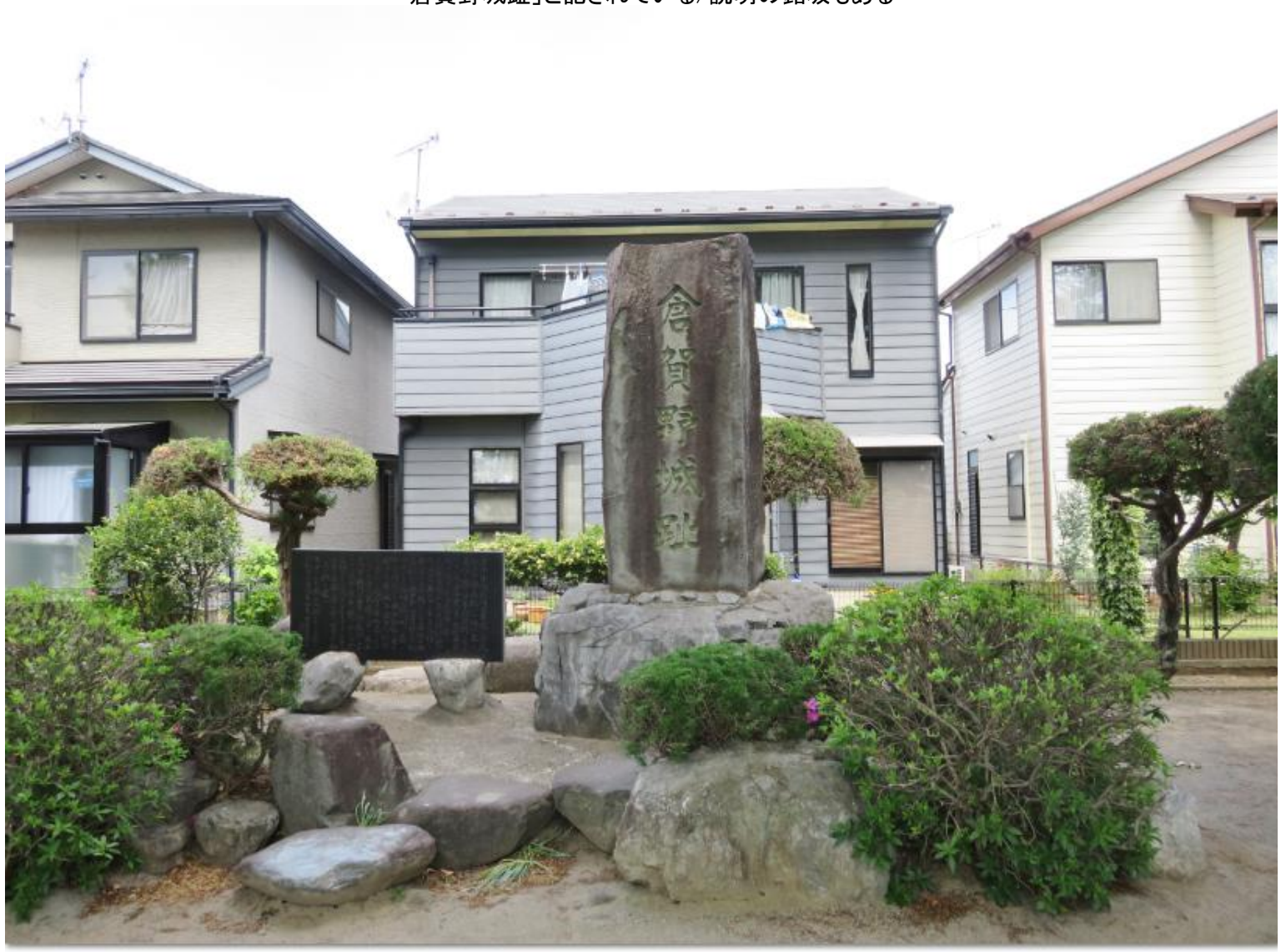
武田方へ従った金井秀景が城主となり倉賀野氏を名乗りましたが、武田氏が滅亡すると織田方の滝川一益に従い、本能寺の変の後は北条氏に仕えました。天正十八年（一五九〇）北条氏が小田原で豊臣秀吉に下ると、当城も降伏し廃城となりました。

フェンスの背後には烏川が流れている

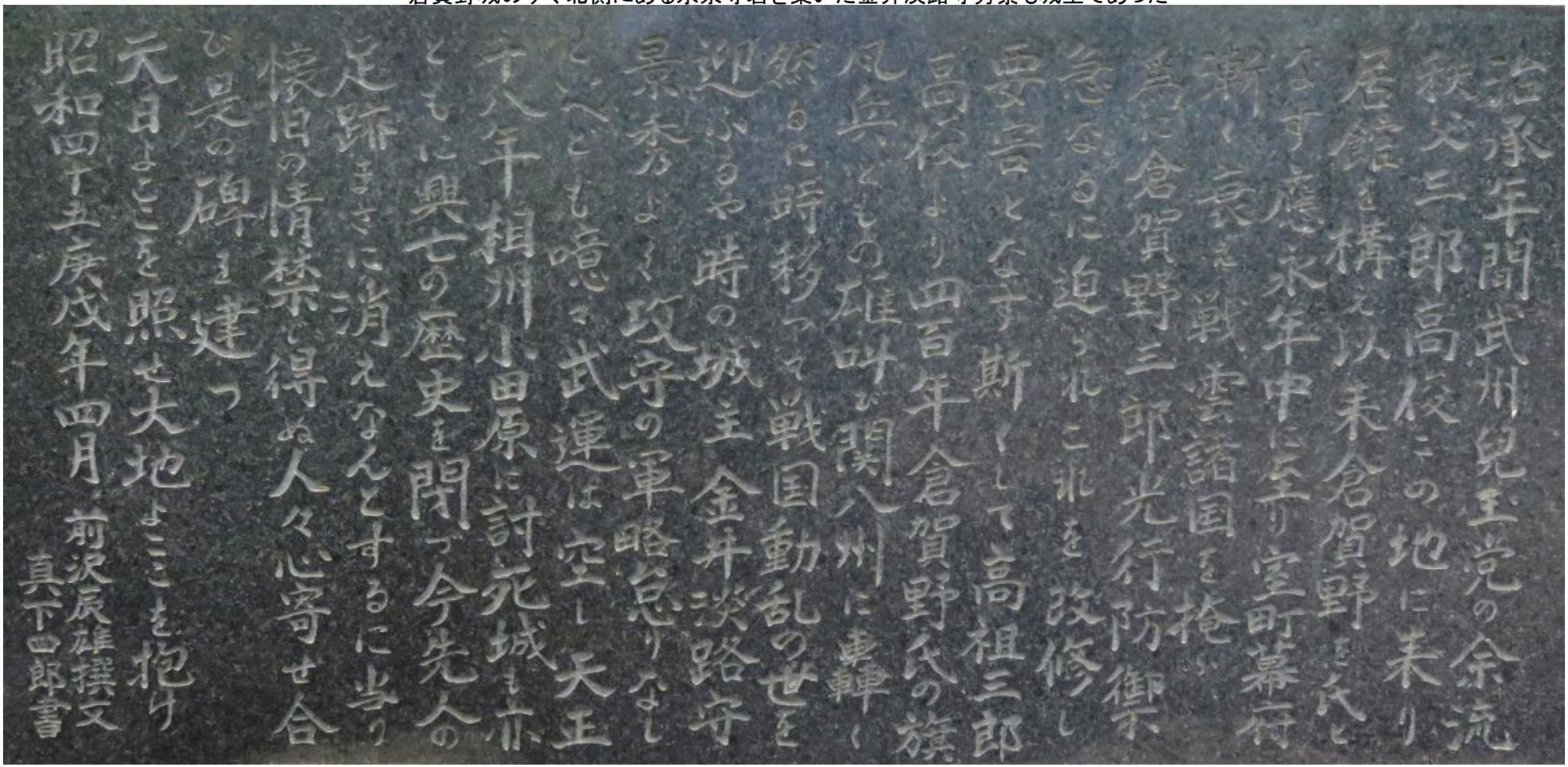
右手を見たところ

左手を見たところ/前方に石碑が立っている

「倉賀野城趾」と記されている/説明の銘坂もある



倉賀野城のすぐ北側にある永泉寺砦を築いた金井淡路守秀景も城主であった



そこから右手（西方向）を見たところ

これが本丸の南側を流れる烏川/天然の要害となっている

さて、前方の鳥居の所は八幡宮で、右手前の覆屋の中に井戸があり、井戸八幡と云うようだ/この辺りは二の丸のエリア

井戸八幡宮縁の井戸と大神輿

この覆屋（おおいや）の中にある井戸が、正面に建つ八幡宮の俗称「井戸八幡縁の井戸」です。

八幡宮は、倉賀野城三の郭跡の古井戸から、一夜にして水が噴き出し八幡大神が現れたのを起源と伝えられます。創建は正保三年（一六四六）で、代々の高崎藩主が篤く崇敬し、宮元である田屋町の住民が誇りを持って守ってきました。

現在井戸枠の上には江戸中期頃に造られた立派な神輿が安置されています。この神輿は特別の祝祭時に出御する宮神輿で、平成十七年九月、倉賀野神社造営七五〇年大祭の時に社殿前に出御されました。

その際は、倉賀野神社の「天明神輿」（製作年の天明に因んで呼ばれる）の渡御を迎え、天明神輿と共に並んで安置されました。

八幡宮

この道路は二の丸と三の丸の間の堀跡に当たるようだ/前方（南方向）に下って行くと烏川が流れている/左手に説明坂が見える

田屋町河岸道
「馬街道と牛街道」

江戸時代の倉賀野には、宿通りから倉賀野河岸へ通じる二本の河岸道がありました。一本は横町の通り、もう一本が田屋町の通りです。河岸に荷揚げされた行徳塩(千葉県行徳で取れた塩)等の上り荷は、牛の背で河岸道を北に２００ｍ程行き、二股に分れた左の道「牛街道」を通り脇本陣「須賀庄(すがしょう)」脇から往還へ出、高崎から信州方面へと運ばれました。上信越諸藩の廻米は、高崎方面から馬の背で本陣西の「馬街道」から河岸まで運ばれ、高瀬舟で江戸へ運ばれました。

寛政12年（1800）頃の倉賀野宿中ベ部と田屋町の河岸道
「中山道分間延絵図」第四巻（昭和５３年東京美術発行）より

その堀跡の道路を南側から北方向に見たところ/江戸時代には河岸道として利用されたようだ

烏川/江戸時代にはここに河岸があったと云う

川沿いの道路にも説明坂があった

倉賀野河岸

文献によると倉賀野河岸は永禄四年（一五六一）に倉賀野宿の住人十名が舟により運搬営業をはじめ、舟問屋を開設したとある。事実上、問屋がかまえられて運営をはじめたのは慶安年中（一六四八～五二）であったというから江戸期に入ってからで、この頃になって舟利用の運搬が盛んになり、全盛期には七十六の業者があった。

米麦・たばこ・織物・木材などの産物を目的地に運び、帰り舟で干魚・油・茶・塩・砂糖などの荷を運んだ。当時は旅籠屋七十一軒、茶屋九軒、商家三十四軒、造り酒屋二軒があり倉賀野宿の賑やかさは大変なものであった。

明治十七年（一八八四）高崎ー上野間の鉄道の開通に伴い、これまで輸送の大動脈だった舟運は役割を終え、倉賀野河岸は急速にさびれ、今では面影を残すだけとなっている。

高崎市
㈳高崎観光協会

民家の庭先に石碑が見える

「大杉神社跡地」と記されている

東側から西方向を見たところで、前方の烏川の右手が先程見た倉賀野城本丸跡の雁児童公園

参考ホームページ

http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/003gunma/193kuragano/kuragano.html

http://yogokun.my.coocan.jp/gunma/takasakisi.htm

http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Gunma/Kuragano/index.htm

http://www9.wind.ne.jp/fujin/rekisi/siro/takasaki/kuragano/kuragano.htm

http://www.geocities.jp/zanyphenix/shiro520.html

https://ameblo.jp/castle-manabu/entry-12214638177.html

http://www.uraken.net/museum/castle/shiro123.html

http://shingentravel.com/joukangunma/kuragano/kuragano.html

https://blogs.yahoo.co.jp/tsjqu183/15316933.html?_ysp=5YCJ6LOA6YeO5Z%2BO6Leh77yI6auY5bSO5biC77yJ

東中里町
倉賀野町
ミスターマックス
中山道
サンキ
マルエドラッグ
永泉寺
倉賀野駅
133
高崎線
東公園野球場
安楽寺
倉賀野神社
中町
121
大鶴巻古墳
倉賀野中
共栄橋
烏川
121
倉賀野町
下佐野町
173
高崎市民G